



ORIENTEERING JAPAN

94/8

JAPAN

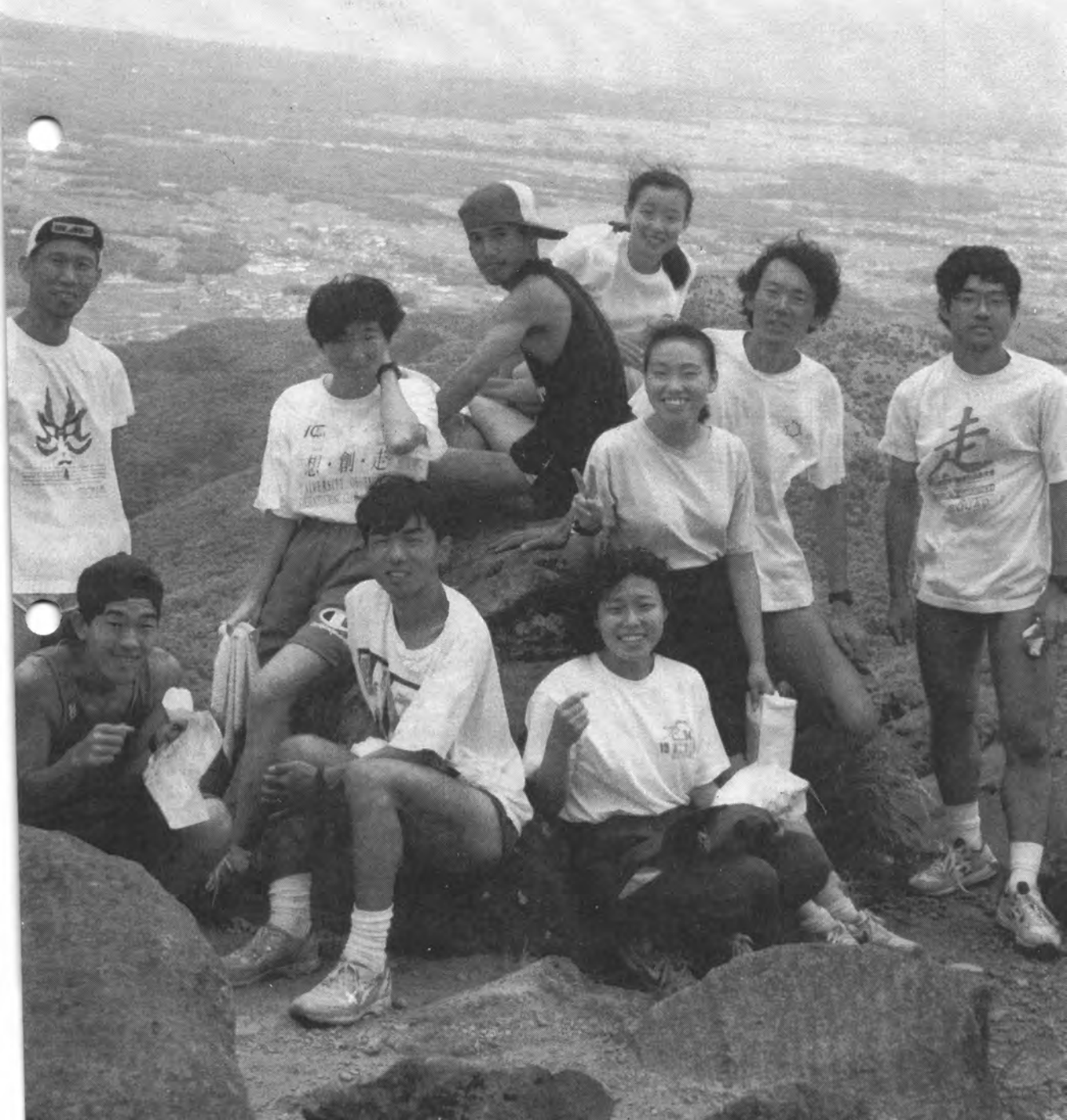
シンキングスポーツ・オリエンテーリング

1994年〔平成6年〕8月10日発行

(毎月1回10日発行)

第11巻第8号通巻第133号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



O-MAP 축석

제5회 국민건강 오리엔티어링

지도기호

	주요도로(포장)
	차도
	도로
	길
	소로
	오솔길
	송전선, 철탑
	높은 담(통행불가)
	울타리
	건물
	건물밀집지
	무덤
	기념비, 비석
	삼각점
	특별인공특징물
	등고선, 표고
	보조곡선
	홍벽(통행불가)
	홍벽
	굴, 작은굴
	홍불우리
	작은 홍불우리
	구덩이, 구멍
	바위벽
	바위, 돌
	호수, 못
	건너지 못하는 하천
	하천
	수로
	도랑
	습지
	웅덩이
	우물, 샘
	숲의 경계, 식생계
	과수원
	민가등의 부지
	주차장
	트린 땅(출입금지)
	반 트린 땅(출입가능)
	트린 땅(출입가능)
	식생상태·통행근란
	식생상태·보행가능
	식생상태·주행가능
	출입금지

이 지도는 오리엔티어링 경기용 지도로서 다른 목적에는 사용할 수 없습니다.

조사기간 : 1992년 11월 ~ 1993년 4월
 조사자 : 김용문, 허권영, 최항욱
 지도자 : 김용문
 제작협조 : (주) 코리아 오토맵





■写真：ヨーロッパの主要な大会に近い将来登場しそうな、“エレクトロニック・バンチングシステム。実演して見せるスウェーデンのマッティ・エンバル選手=H21E（今年のORINGEN大会にて）。記事は4ページ、日本経済新聞記者・西尾順一氏、写真提供も同氏。

■今月の表紙：9月にスイスで行われるユニバーシアード（世界学生選手権大会）のために、高地トレーニングを積んだ選手のみなさん。=8月11日長野県、車山高原。桐田幸宏氏提供。

■今月の地図：久しぶりに韓国の地図をお目にかけます。昨年の第5回全国国民健康OL大会（京畿道）に使用されたもので、同国オリエンテーリング連盟会長の呉正煥氏から送られてきていた。

□ □ □

＝ 投稿 ＝

・OLもバーバーレス？

方向音痴会/日本経済新聞記者 西尾 順一 … 4

＝ EVENT REPORT ＝

・第16回東大OL大会

佐藤 征男 … 5

＝ 全国PC愛好会 ＝

・パーマネントコースりぼ〜と

富田 徹 … 5

＝ 連載 ＝

・大会運営学「大会を開き、育てる法」

第2回 大会運営作業マトリクス

早大OC寿会 池ヶ谷 悦朗 … 6-8

＝ オリエンティアのための Medical Advice ＝

・④虫にさされて起こる病気

OLCレオ・愛場 庸雅 … 9

＝ 森の豆知識 ＝

・③林業における生産活動

水戸OLC 佐藤 征男 … 10

＝ オリエンティアのための本棚 ＝

・第11回：トリストラム著「地球を測った男たち」リプロポート

文：村越 真/カット：早川喜代美 … 11

＝ 日本オリエンテーリング競技規則 ＝

… 12-18

「日本オリエンテーリング競技規則」

「公認大会開催に関する規程」

「公認大会エリート・クラス出場資格規程」

＝ お知らせのページ ＝

… 20

・九州の風 ・編集部より

□ □ □



OLもペーパーレス?

西尾 順一：方向音痴会OLC
：日本経済新聞記者

「電子パンチ」ついに登場! —かねて『ORIENTEERING WORLD』誌などで開発動向が注目されていた「エレクトロニック・パンチングシステム」が、7月20日、スウェーデン・エルンシェルズビクで開かれたO-RINGEN第3日にエリートクラスに使用された。紙のチェックカードに代わる新兵器で、IOF(国際オリエンテーリング連盟)もその行方に注目しているという。その秘密を探ると—。

新システムの名前は「レグンリー・トラック・レコーディング・システム」(RTRS)。ノルウェーに本社のあるスポーツ用計時システム会社、レグンリー社(AB REGNLY)がスウェーデン、ノルウェー両オリエンテーリング連盟と協力・開発した。

システムは紙のチェックカードの代わりに競技者が手に着けて走る「eカード」、パンチ台に設置された送信部の「コントロール・ユニット」、eカードを読み取るリーダー(解読機)とパソコンからなる。 99A

eカードはプラスチック製の荷札のようなもので、大きさはほぼ名刺大、重さは約20g。黄色いプラスチックケースの中に、通過したコントロールを記憶するマイクロプロセッサを内蔵している。コンパスの針に影響を与えないよう、コンパスを持つ手と反対の手に着けて走る。

競技者はパンチ台の送信部にeカードをカチッと挿し込むだけで、そのコントロールを通過したことがeカードに記録される。所要時間は、慣れれば紙の場合と変わらないという。「ICカードを持って走る」と考えればわかりやすいだろう。

eカードの最大のメリットはその速報性にある。ゴール後回収されたeカードは、すぐ読み取られ、競技時間や特定の

コントロール間のラップタイムをパソコンで表示できる。オリエンテーリングをメディアにのせ、オリンピックを頂点とするスポーツに育てようと、IOFなどが努力を続けているが、この速報性がテレビの前の視聴者を引き付け、競技会場の観客をわくわくさせることになるというわけだ。途中のパンチ台をラジオコントロールとして使えば、人手を置くことなく途中計時を速報できる。

eカードは一度に50か所まで対応でき、少々ぶつけても、雨や雪が降っても大丈夫だという。カードの裏には紙が着けられるようになっており、パンチ台を通過する際、パンチ台の送信部に設けられた金属製の突起でカードに小さな穴が開く。これはシステムが万が一ダウンした時のバックアップ用だ。

現在のところ、eカードとパンチ台の送信部はともにひとつ300ノルウェー kroner(約4500円)。eカードは300回まで繰り返し使え、eカードは2年、パンチ台の送信機は10年の使用に耐えるという。レグンリー社は大会主催者にシステムを買い取ってもらう方式のほか、現在のコンパスのようにeカードのみを競技者に持ってもらい、それ以外のシステムを現在のパンチ台やポストフラッグのように主催者に持ってもらう方式を検討している。

このシステムは昨年来のテストを終え、今年からノルウェーやスウェーデンのいくつかの大会で試験的に導入されたばかり。主催者側の取扱いはもちろん、競技者側にも慣れるまでに時間がかかるなど、クリアなくてはならない問題はまだ残っているが、速報性に優れていることや、人手が大幅に減らせること、チェックカードという紙を浪費せず環境面でのメリットをアピールできることなどを勘案すると、北欧など大きなオリエンテーリング人口を抱える国ではこうした



競技者がチェックカードの代わりにつけて走る「eカード」



パンチ台に設置されたコントロール・ユニット(送信機)。金属製の突起がバックアップ用に穴をあける部分で、ポストによって位置が変えてある。



ゴールレーン先に設置された速報表示パソコン。8秒に1度画面が更新され、一度に10人まで表示できる。

システムの導入は大きなトレンドとなりそう。来年のO-RINGENではエリートクラスで5日間とも使われる可能性が高い。

今回のO-RINGENではこのほか、全クラスの競技者のチェックカードに「バーコード」が付けられた。ゴールレーンのすぐ先にはレーンごとにモニター画面が設置されており、競技者がゴール後すぐ、自分のタイムを確認できる仕組みだ。「技術立国日本」にこうしたシステムが登場するのは、いつの日か—。

□1994年6月5日(日)
第16回
東大OL大会

■千葉県千倉町

今年、6月5日。房総半島の南端、早春の花の栽培で知られる千倉町が会場である。

館山から千倉へ向かう内房線の電車の車窓から望む山波は、常緑広葉樹の林。いつもの、落葉広葉樹林の真っ黒なスギ、ヒノキ、マツなどの林とは、まったく異質な暖帯林の代表樹種であるシイ、カシことになった。、タブなどの常緑樹林で、落葉や落枝が多いが、下草もあまりなく、可能度は予想外に良かった。

房総半島の南端、微地形の変化が激しく複雑。樹林がなくなったら日本離れた地形の地域だという印象を受けた。

作図者は3名の女性(?)のためか、細かく作図されていた。このため、前半は地図読みはかなり時間を使われてスローペース。岩の多い小尾根の上り下りの激しさのため、スピードは上らず大変苦勞した。地図調査者の数を見ると、なんと88名、それに調査協力者13名が加わる。当然、地域により調査のバラツキがあるように思われた。

ポスト記号 209, 218, 224を結ぶ北側の位置に、これらのポストに平行して、小径か小道が描かれていたが、帰宅してから倍率2, 3倍の拡大鏡で地図読みの確認中に、見つけることができた。近年は裸眼視力が弱くなって、細かな地図読みが困難になってきた。特に今度のように、曇り空の天気の日、常緑樹林の繁った薄暗い林の中での読図に苦勞した分、普段よりもルートを難しくしたOLを楽しむことができた。速報ではH50A第10位で、一位との時間差は26分12秒と離された。

レポート: 水戸OLC 佐藤 征男



パーマニントコース



りぼ〜と

□1994年3月5日(土)
千葉県 No.142 ~富田 94-1 ~
「ネ由ヶ浦」

[距離] 8 km
[ポスト数] 8本 PC・O-MAP

内房線「袖ヶ浦」駅下車。駅前から日東バス「のぞみ野ターミナル」行き(*7.53, 8.08, *8.27, 9.10, *9.36, 10.40, 11.00, *11.55)または「平川行政センター」行き(*7.26, 8.20, 8.45, 9.55, 12.40)=* 休日運休=で10分、「袖ヶ浦公園」下車。タクシーでは5分程度。公園へ入ってすぐ鮮明なマスターマップがある。マップは近くの下記にあると書いてあるが土曜日のため休業。昭和59年作図の古いマップと比較したら、かつての⑦と⑧がなくなったが、それ以外の8ポストは変更なし。③がやや発見しにくいだけで易しいコースである。全ポストOKだ。

(袖ヶ浦社会福祉協議会
☎0438-63-0825)

□1994年3月6日(日)
千葉県 No.144 ~富田 94-2 ~
「甲島川」[名員]区]

[距離] 10 km
[ポスト数] 10本 PC・O-MAP

外房線「安房鴨川」駅下車。駅前通りを渡ってすぐ右に日東バスの建物があり、「長狭線」(7.15, 8.10, 8.56, 9.50, 10.52, 11.50)で25分「吉尾駅」下車。内房線「保田」駅からのバス9.05, 11.15(金東乗換38分)もある。近くの「吉尾公民館」にやや不鮮明なマスターマップがあったが、マップは公民館が日曜休館で入手できなかった。⑩①~⑦⑨⑧と回ると「安国寺」バス停に出る。⑩は学校の裏へ入り少し登る。①へは小径をたどるより、東へ回り道して道路から入る方が楽であった。問題は⑥。キャン

プ場の国旗掲揚塔近くの小径へ入り、土塁と交差して⑥へ向かう小径も分かったが、マップ上の岩が見当たらない。いったん交差へ引き返し、今度はコンパスワークで一直線に下ったら発見できた。山道は刈り込んでいないので、夏は夏草が生い茂るだろう。③⑨のポスト記号が消えかかっていた。

(安房支所社会福祉課
☎0470-22-7111)

□1994年4月3日(日)
千葉県 No.16 ~富田 94-3 ~
「修善寺
ユースホステル」

[距離] ? km
[ポスト数] 7本 PC・O-MAP

「修善寺」駅から東海バスで「虹の郷」「ニュータウン」「戸田」行きのいずれか(8.00, 8.18, 9.00, 9.25, 9.40など)で「ニュータウン入口」下車。案内板に従って「修善寺ユースホステル」へ行くとマップとマスターがある。マップは1982年のものなので、「虹の郷」造成により現状と変っているから注意するように言われた。ABCコースのうちCコースを選んだ。問題は③から④まで。③のそばの小川の右手にマップにない舗装道路があり、「しめた」とばかり登ったが、すぐ終わってしまい後は踏み跡程度になる。夏秋は草をかき分けることになりそう。コンパスワークで④へ到達した。⑤へは「虹の郷」のフェンスに沿って歩くしかない。修善寺なら満開だと思った桜は一分咲きであてがはずれた。全ポストがきれいに塗り直されており、よく見ると「平成4年用お年玉付年賀葉書寄付金受配事業」と記されていた。

(修善寺ユースホステル
☎0558-72-1222)

レポート:
〒225 横浜市あざみ野1-12-13-303
富田 徹

大会運営学

— 大会を開き、育てる法 —

第2回 大会運営作業マトリクス

早大OC寿会 池ヶ谷悦明

まず全体を視野に入れる

前回、大会運営では作業の漏れや手順の誤りが失敗をもたらすことを指摘し、作業を漏らすことなく、しかも、正しい順序で行うこと、そして、そのための計画が重要であることを述べた。

今日では、多くのクラブが詳しいマニュアルを作成しており、その運営は計画的であるかのように見える。しかし、そこに書かれているのは、大会当日とせいぜい直前の作業のやり方でしかない。言うまでもなく、準備は大会の1年前には始まっているし、大会終了後にも作業は残っている。それが、どういふわけか、直前から当日にかけての作業についてしか文書化されない。

そもそも、漏れない作業も、正しい順序の作業も、すべての作業項目が明らかになってこそ可能になる。ところが、これだけマニュアル化が推進されていながら、「大会開催に必要なすべての作業を書き出した資料」がないのである。少なくとも私は見たことがない。一部のメンバーしか携わらない事前や事後の作業などは、マニュアル化、文書化とは無縁であるかのように思い込まれている。漏れの有無すらチェックできないのが現状なのだ。

以前、こんなことがあった。

大会前日、スタート班のチーフが「あっ！ 歩測区間作るの、忘れたっ！」と言って慌てている。マニュアルには「歩測区間を作る」ことについて、どこにも書かれていなかったのだから仕方がない。では、なぜ、歩測区間のことに気づいたか？— それは「歩測区間ここから」等の立て看板が会場に残っていたからである。作るべき立て看板の仕様や枚数については、マニュアルに書いてあったのである。

まさに現在のマニュアル化を象徴するエピソード

ソードと言えよう。細かいことは書いてあって、より肝心なことが抜けている。作業項目さえリストアップしてあれば、このような漏れは起き得ないのに。

マニュアル化の推進を否定するつもりはない。が、今日のような一部現業の細かなhow toばかりに注視したマニュアル化は見直さなければなるまい。重箱の隅を突っ付くことも必要ではある。しかし、それは一番最後にやれば良いことではないか。

つまり、個々の作業のやり方以前に、まず全体を視野に入れることが大切なのだ。大会を開催するために必要な作業項目をすべて紙に書き出し、それに対して未済かのチェックを入れながら作業を進めていく。そうすることで、常に全体に照らした準備の進行状況を把握することができ、作業の漏れを防ぐことができるはずだ。

分野と工程のマトリクス

大会を開催するために必要な作業は、いくつかの「分野」に分類することができる。一

方、それぞれの作業には「実施すべき時期」がある。つまり、すべての作業は「分野」と「実施すべき時期」から成るマトリクス上に位置づけることができるはずだ。

そこで問題になるのが時間軸の区分である。これまで大会運営の時間的な側面を区切る試みは行われていなかったように思う。ここは「工程」という概念を提唱して、区分を試みたい。

大会運営における工程とは、大会の1ヵ月前とか2ヵ月前といったような暦日による区分ではなく、運営上の主要なイベントによる区分である。事前の主要なイベントとしては、要綱発表、プログラム発表、現地入りなどがある。これらは外部に情報を発表したり、運営者を取り巻く環境が変化するポイントで、簡単に言うと、これを越えると引込みがつかなくなるという境界線である。前回述べた「発表することの重大さ」を意識した区分であることは言うまでもない。

こうしたイベントにより、大会運営は計画、準備、開催、評価の4つの大工程に区分できる。工程による区分を図1に示す。

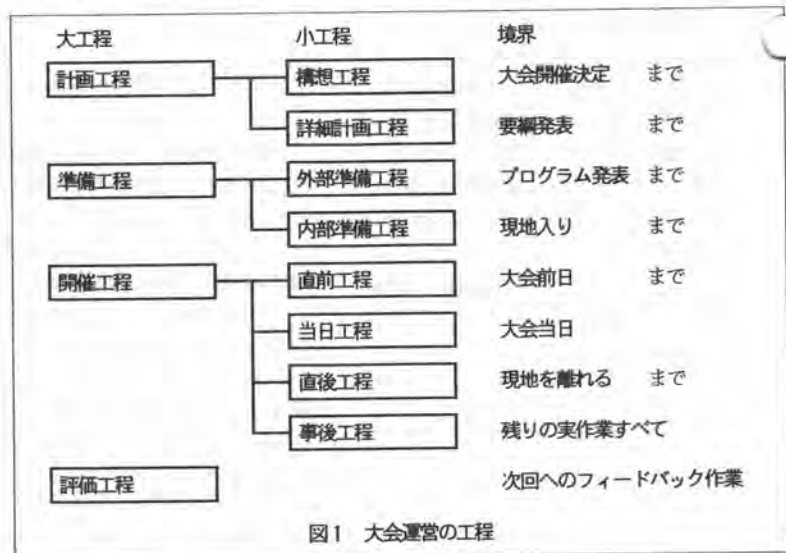


図1 大会運営の工程

ネットワーク図を作る

さて、大会運営作業マトリクスによって、作業の全貌が明らかになった。完了した作業を消し込んでいくことにより、少なくとも漏れについてはチェックできるところまで来たのである。残るは手順の問題だ。

私は、学生時代、4年間を通じてプログラムの編集を担当していたのだが、周辺の作業がプログラムに載せることを意識して進められておらず、ずいぶん苦労したものである。今だから言えることだが、ある時は直観的にコース距離を決め、また、ある時は見たこともないコースのプロフィールを書いたりもした。つまり、コースプランニング→試走→コース印刷の流れについては意識されていても、コースプランニング→試走→(コース確定)→プログラム原稿作成という関係については、意識が十分には浸透していなかったのである。

上記のプログラム原稿作成と試走のような「結果待ち」の関係は、大会運営の随所に見られる。しかし、直接的な関連ではないため、ややもすると忘れられがちなのだ。実は、前回挙げた失敗事例のいずれもが、この「待ち

」に関係している。待つべきものを待っていない、あるいは、ある作業を先行させ、その結果を見てから始めなければならないのに、その手順に気づいていない、など。

したがって、これまで明確に意識されていなかった、この「結果待ち」の関係を明らかにすることが重要な意味を持つ。「その作業に着手するためには、何ができていなければいけないか。何と何と何と何が揃っていないか。」という観点から、現在の作業手順をいま一度解きほぐして再構築してみる必要があるのである。

そこで、マトリクスに書き出した作業項目を、作業の順番に矢印で結んで関連を明らかにしてみることにしよう。この時、パート図(PERT:Program Evaluation and Review Technique)の手法に習って、「結果待ち」の関係を点線の矢印を用いて記入することとする。この図を大会運営作業ネットワーク図と呼ぼう。プログラム作成までの作業の流れの一部を書いたものを図3に示す。

もっとも、すべてが固まらなくても、さみだれ式に部分部分から作業に着手できる場合も多いはずだ。そうした場合は、その一つの

「部分」を作業項目の単位と考えれば良い。図3で各原稿の作成を1項目として扱っているのは、その例である。

さて、どうだろう。ネットワーク図に書き出したことにより、コースプランニングや試走はもちろん、地元挨拶回りがプログラム印刷に影響を与えることが明らかになった。このように、ネットワーク図を作成することにより、それぞれの作業の位置づけや他との関連、さらには遅れた場合の影響範囲までもが明確に意識できるようになる。しかも、その意識は、これを見たすべての人に共有されるのである。

実のところ、私自身、このネットワーク図を完成させたわけではない。しかし、完成を待たなくても、そのエッセンスだけなら発音できるはず——そう考えて連載に踏み切った。どうか皆さんも、このネットワーク図を作りながら、これまでの手順を見直すプロセスを体験していただきたい。

なお、PERTについては『計画の科学』(加藤昭吉著、講談社ブルーバックス)に詳しい。一読されることをお勧めしたい一冊である。

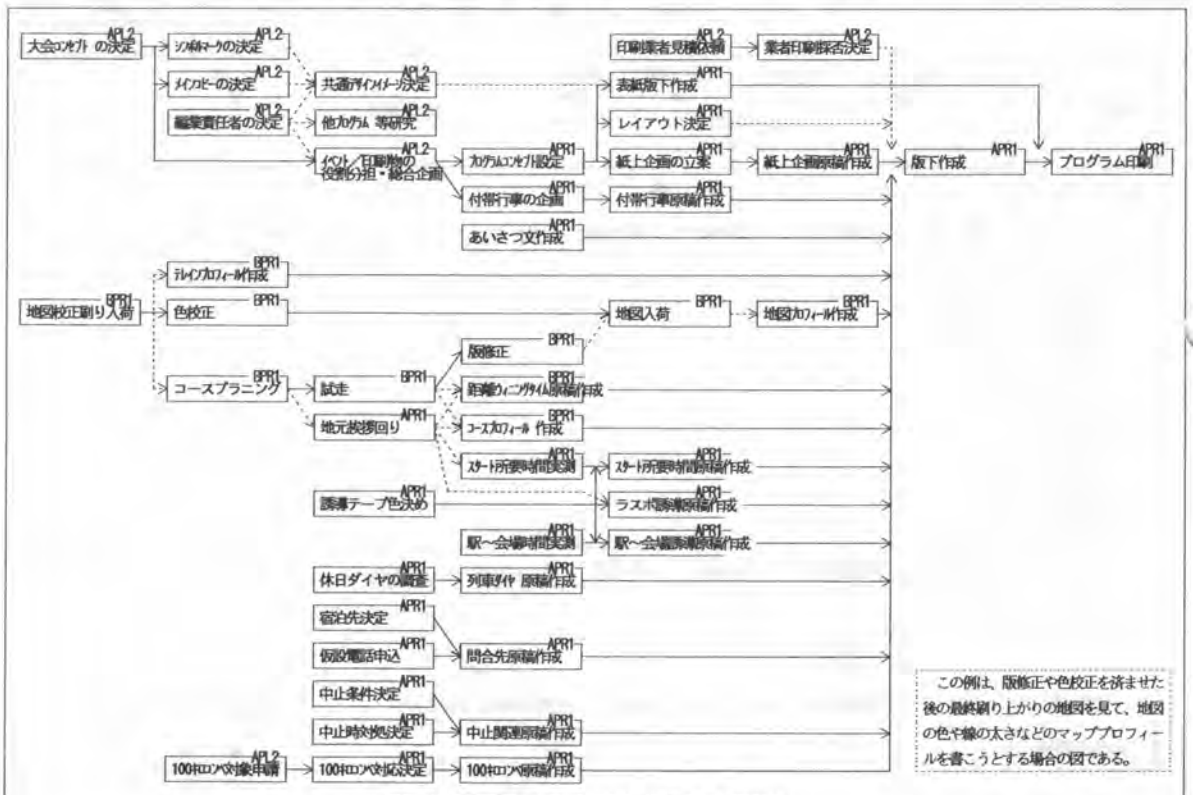


図3 大会運営作業ネットワーク図(プログラムの作成(部分))

オリエンティアのための Medical Advice

OLCレオ 愛場 常雅

④ 虫にさされて起こる病気

夏のOLはうっとうしいものです。暑いだけならまだいいのですが、森の中に行くといろんな虫に襲われます。ヤブ蚊をはじめ、蜂、毒蛾、毛虫、ブヨ、蛭、クモ、ヘビ…と数え挙げればきりがありません。そんななかで、あまり知られていない病気を二つご紹介しておきましょう。いずれも虫に刺される可能性の高いオリエンティアには、知っていて損はないものと思います。

・つつが虫病

「つたがないご旅行を」というのは旅の無事を祈る言葉ですが、この「つつがない」という言葉は、「つつが虫にさされて病気になるように」という意味から来ていると言われてます。昔は新潟、秋田、山形などの川の流域に、特に真夏に多く見られたアカツツガムシによるものが多かったのですが、最近では日本全国に生息するフトツツガムシや、房総、伊豆半島、東海、九州に多いタテツツガムシによるものが多くなっており、季節もフトゲは秋から春、タテは秋から冬に吸着します。

つつが虫病は、つつが虫の幼虫に吸着されることにより、リケッチアという病原体がはいてきて起こります。刺されたあと6～18日で刺し口に黒いかさぶたか、まわりの赤い膿疱ができ、このころから発熱、頭痛、眼痛、結膜充血がおこり、はしかに似た発疹が体の中央から手足へと広がります。またリンパ節が腫れ、重傷の場合は脳神経症状、心筋炎、乏尿といった症状も出てくるようです。最近の型（フトゲやタテによる）は軽症が多いといわれています。

治療にはテトラサイクリンという薬が

有効ですので、診断さえ早期に確定すればそれほど恐れることもありませんが、あまりありふれた病気ではありませんので、これを見たことのない医者も多いのも確かです。（私ももちろんありません）年間800例位の届け出があるようですが、これは全体のごく一部にしかすぎないだろうといわれています。

・ライム病

1975年秋、アメリカ合衆国コネチカット州ライム地方で、原因不明の関節炎が集団発生しました。この患者には、関節症状の出る前に環状に拡大する紅斑とマダニに咬まれた既往があり、その後の研究の結果、スピロヘータという微生物の新種である、ボレリア・ブルグドルフェリによる全身性感染症で、マダニによって媒介されるものであることが判明し、ライム病と命名されました。その後今世紀初頭から北欧で報告されていた紅斑と関節炎、神経症状を伴う病気もライム病と同じものであると考えられています。

ライム病はヨーロッパや北アメリカで多発していますが、日本での報告はまだ数10例のようです。しかし、北海道、本州北部に多いシュルツェマダニや日本全国に分布するヤマトマダニからもボレリアが分離されているため、ダニに咬まれた後に発病する可能性はあります。症状は3期に分けられます。

第1期：感染後1～2週間。インフルエンザのような症状とともに、ダニに刺された場所から紅斑が周囲に拡大してゆき、時に中心部が消えて輪状になります。この紅斑は数週から



数か月で自然治癒します。

第2期：数週から数か月後、菌が全身に広がって、神経症状（髄膜炎、脳炎、顔面神経麻痺その他）、心臓の症状（不整脈、心筋炎など）、関節症状、二次性の紅斑などの多彩な症状が見られます。

第3期：数か月から数年後、菌が局所に定着し、慢性的、持続的、間欠的な関節、神経、皮膚症状を起こし、治療に抵抗します。

治療は早期診断、早期治療が重要だと言われており、テトラサイクリンやペニシリンといった抗生物質が有効です。しかしこれもつつが虫病と同じであり知られていない病気ですので、疑わしい症状で医者にかかる時は、OLで山の中にはいったことをはっきり告げるとともに、ダニに刺されなかったかどうかよく思い出してください。



森の豆知識 ③

水戸OLC 佐藤 征男

3. 林業における生産活動

森林所有者である林家などが、年間どのくらい森林に入り込みをしているかを調べることによって、森林の手入れや管理の状況を調べる方法があります。この状況を把握することによって、森林をトレインとする日本の場合、その管理や手入れの状況が走行可能度を推定する重要な要因となっています。

関東地方で、主としてOL大会の開催される機会の多い千葉の山武、東京の青梅、埼玉の西川地方などは、日本を代表する林業地帯であり、それだけに森林の管理も比較的良好に行なわれていた地域です。心当たりのある方も多いと思いますが、10年位前にはトレインの小径や小道も明瞭で、下草も少なく走行可能度が抜群であったトレインも、現在では、小道までも不明瞭になり可能度も悪化してきております。このように、林家などの生産活動の減少（森林への入り込み減少）によって急速に悪化した森林環境の変化を体験された方も多いことでしょう。

そこで、林家などが、その保有している山林で、過去1年間に行なった森林を育てるための作業や、森林からの収穫を得るための作業の主なものから最近の状況を見てみましょう。

①植林

森林を造成するための、スギやヒノキなどの苗木の植えつけの作業のことですが、これに伴う地ごしらえや苗木を運搬するなどの一連の作業を含みます。

②下刈りなど

下草を刈り取る本来の下刈り作業のほか、除伐、つる切り、枝打ち、雪起こしなどの作業が含まれます。雪起こしは、降雪の多い地方などでは、幼齢の樹木が

雪により倒れてしまうので、雪解けの時期にロープなどで引き起こします。埼玉県の西川林業地帯のトレインでは、ロープの代わりに針金を使用して、雪起こしをしているために、林の中を走るオリエンティアは、走行中にこの細い針金が見ずらく目につかないので、特に注意して走ることが必要です。

③除伐や間伐

スギやヒノキなどを植林してから10年から15年位すると、苗木も大きく生長してきますので、除伐や間伐と言って植林した樹木をダイコンやニンジンなどの野菜類と同様に、間引きをして目的とする樹木の生長を促進します。

④主伐

地域や植林した苗木の樹種によっても差がありますが、植林してから50～60年位の長い年月が過ぎると、いよいよ収穫するための伐採をします。販売することを目的とした伐採ですが、家屋の新築や子供達の結婚など、林家では大きな出来事がある時に、伐採する場合があります。特に5歳未満の小規模の林家の場合には、この傾向が強くなります。一方森林の所有規模が大きくなればなるほど、主伐からの収入に依存する割合は強くなります。

過去30年間に、これらの諸作業を実行する林家の割合が目立って低下してきました。1歳以上の山林を保有している林家全部の平均値でみると、植林は1960年の31.4%から1990年の4.7%へ、下刈りなどの保育作業は、56.6%から27.3%に落ち込んでおります。間伐と主伐については、連続したデータがなく比較することはできませんが、林産物を販売した林家の比率でみると24.9%から5.1%に低下しております。

これらから明らかなように、林業における生産活動の不振は大きなものとなっています。

これは1970年代半ば以降の外材輸入の増加と、国産材価格の低迷（丸太の輸入には関税がかからないこと、為替レートが円高傾向をたどってきたこと、木材需要量の75%を占める外材が価格形成の主導権をにぎっているなどによる。）林業での労働生産性の伸び悩み、急峻な地形、小規模の所有者が多いことなど機械化が難しく、生産ロッドの拡大が困難などが効いているものと思われます。

それに、付け加えるならば、1950年代から1970年代半ばまでの異常なほどの植林熱が一服して、植林や伐採の動きが少ない時期に入っているという面もあるかと思われます。

過去30年間における林家の生産活動の中でとりわけ重要な意味を持つものと思われるものは、林産物（木材、薪、木炭、樹皮、樹脂）や山菜、菓草、きのこなどの副産物の販売機会の縮小であります。これは1950年代からの農業構造の変化（落葉からの堆肥を肥料としていた時代から化学肥料の大量投入と機械化の時代に）燃料の消費構造の変化（薪や木炭の使用から石油やガスの利用へ）、この二つの革命とも言える大きな変化は、林業生産活動の全般的な不振をもたらした基本的な原因であるとともに、林業従事者の減少や山林保有者の非農家化、不在村化の要因にもなっていると思われる。



オリエンティアのための本棚



第11回：トリストラム著「地球を測った男たち」リポート

文：村越 真/カット：早川喜代美

これは、地球が縦に長い扁平なのか横に長い扁平なのかを確かめるためにフランス学士院の派遣でペルーに渡り、子午線1度の長さの測量に9年の歳月をかけた人々の物語である。

1735年フランス学士院は、極北のラブラドルとペルーに測量隊を派遣する。デカルトの宇宙論とニュートンの宇宙論のどちらが正しいかを確かめるためである。デカルトの宇宙論によれば、宇宙には渦を巻きながら移動する媒質が充満し、惑星はその渦に乗って太陽の周りをまわっている。地球は宇宙にある渦の中で自転をしているので、縦に扁平な楕円体のはずである。一方ニュートン力学の予測するところによれば地球は自転による遠心力によって横に膨らんだ楕円体となる。どちらが正しいのか？極北と赤道直下の子午線の長さを正確に計測すればどちらの予測が正しいかわかるのである。

ラブラドル隊も苦労はするが、「地図を作った人びと」の著者ウィルフォードに言わせれば、ペルー隊に比べれば遠足のようなものだ。ペルー隊の基線測量では土地の開墾から始めなければならなかった。「幅半メートルほどの帯状に、灌木を引き抜き、貧弱な木々を切り倒し、巨大な岩を取り除き、デコボコをなだらかにし、溝を埋め、壁には穴をあけ、小川には板の橋を渡し、重くて動かせない岩は爆破し、草木が密生しすぎている部分には、火をつけて燃やした」。測量のための標識は放置しておくインディオに持ち去られてしまう。自分たち自身でテントを張ってそれを監視する必要もあった。

地上での測量ほどの派手な物語はないが、天体測量も地味で根気を要求される困難な仕事であった。弧の長さは地上での測量によって既にわかっている。その両端の緯度の差を天体測量によって正確に把握することができれば、子午線1度の長さは計算できるのである。

原理は簡単だが、精度を確保するためには念入りの調整と点検が必要だった。いざ機械の方の準備ができて目標となる星をいつとらえたらもっとも正確な測定ができるかの割り出しだけで何ページにも及ぶ計算が必要だったという。しかもその時、天候に恵まれなかったら・・・課題をより一層難しくしたのは、実は彼らが仲間割れをし、使えるはずの2台の象限儀をそれぞれ別々に使っていたからなのだ。もし両者を協同して使うことができれば、同時刻に測定をすることで誤りを避けることもできただろうに。

彼らは測量それ自体以外にも多くの困難に巻き込まれる。動乱に巻き込まれる、地震による事故に合い隊員が死亡する、恋敵に刺殺された隊員もいる。帰途の筏による川下りでは、貴重な計算資料を詰めたトランクが間一髪で流されるところであった。この困難な測量行を終えて最初の隊員ブーゲーが帰ってくるのが9年後、最後の隊員の帰国はじつに38年後なのである。

子午線1度は赤道上で110.598秒。彼らの6年間の苦難に満ちた測量によって得た成果はたったこれだけに集約されてしまった。ラブラドル隊との結果も併せ、地球はニュートン力学が予測するとおり、横に扁平な回転楕円体であることが実証されたのである。この数字は現在の110.576キロとされる数字と比べても22mしか違わないものである。なお、この数字はフランス革命中に決められた1mのもとにもなっている。

ちなみに我らの伊能忠敬も、地図づくりの当初の目的は子午線1度の長さの測定であった。彼は3回の測量によって二十八里二分という結果を残している。これは現在の値と比較しても1/1000しか違わない精度のものであったようだ。球体だとすればその大きさを知りたいと思う、それが人間ののだろうか。ほぼ同時代に、別の地域でとりつかれたように同じ目標を目指した人々がいたことに感嘆する。

(参考資料：小山慶太 「神さまはサイコロ遊びをしたか」 文芸春秋社)



23. 服装と用具

- 23.1 大会開催要綱に明記されていない限り、服装に関しては競技者の自由である。
- 23.2 主催者が定めた場合、競技者はゼッケンを、明瞭に読み取れるように、胸に装着する。主催者はさらに、背中にもつけるように規定できる。ゼッケンは折り畳んではならない。ゼッケンの寸法は 25×25cm 以下とし、数字の高さは 14cm 以上とする。
- 23.3 競技者は競技中に、主催者から受け取る地図、コントロール・カード、コントロール位置説明書、およびコンパス、時計、その他主催者が必要と認めたものを携帯してよい。その他の技術的な補助器具の使用は禁止する。
- 23.4 身体障害者を対象とするクラスでは、その他の補助器具が使用できる。この場合は、その旨を大会開催要綱に明記する。

24. 公正な競技

- 24.1 大会に関与するすべての者は、公正と正直を旨に行動しなければならない。スポーツ精神と友情を忘れてはならない。競技者は、他の競技者、役員、報道関係者、観客、トレインや大会区域に居住する人たちを尊重しなければならない。
- 24.2 ドーピング行為は禁止する。主催者は、IOFが定める『ドーピング・テスト実施規則』に基づいて、テストを実施することができる。
- 24.3 主催者は大会コントローラーの同意を得て、前もってトレインの位置を公表するとともに、立入禁止区域を設定することができる。公表された場合は、指定する立入禁止区域に立ち入り、調査や練習を行ってはならない。
- 24.4 テレインの位置を公表しない場合、すべての役員は、大会区域とトレインを厳重に秘密にしておかなくてはならない。大会の場所を知ろうとする試みは禁止する。
- 24.5 主催者は、トレインを熟知し他の競技者より明らかに有利な立場にある者を、競技に参加させてはならない。
- 24.6 いかなる競技者も、不正な手段により他の競技者より有利な立場に立とうとしたり、走あるいは方向決定に助力を得たりしてはならない。身体障害者クラスにおいては、大会開催要綱に示す範囲で他の助力を得ることができる。

25. 競技中の行動

- 25.1 競技者は、トレイン内ではできるだけ静粛に行動する。
- 25.2 怪我をした競技者を助けることは、競技者の義務である。
- 25.3 競技者は、自分のコース内の誘導部分では、終始誘導に従う。
- 25.4 ゴールした競技者は、主催者の許可を得ない限り、トレインに立ち戻ってはならない。
- 25.5 途中棄権した競技者は、できる限り速やかに地図とコントロール・カードを大会役員に手渡さなければならない。
- 25.6 競技中すべての人は、それぞれ滞留を認められた区域に留まる。競技者に影響を与える行為をしてはならない。
- 25.7 競技者は自己の全責任において、大会に参加するものとする。

26. 提訴

- 26.1 競技者およびチーム役員は、提訴することができる。提訴は、予告されたゴール閉鎖時刻から1時間後までに、主催者に文書で行うものとする。ただし、掲示された成績、または後日配布される公式成績表に関する提訴については、26.2項および26.3項に定める。
- 26.2 掲示された成績に関する提訴は、掲示後1時間以内に行うものとする。
- 26.3 後日配布された公式成績表に関する提訴は、配布後10日以内に行うものとする。

27. 裁定委員会

- 27.1 主催者は、3名からなる裁定委員会を組織する。裁定委員は、大会組織に関与してはならない。主催者代表者と大会コントローラーは、裁定委員会に出席できるが、投票権は有しない。
- 27.2 裁定委員会の任務は、競技者、チーム役員からのすべての提訴について裁定を下すことである。
- 27.3 裁定委員会は協議すべき3人全員の出席をもって成立する。出席不可能な裁定委員があったときには、主催者は代理を任命しなければならない。
- 27.4 裁定委員会の決定をもって、最終裁定とする。

28. 競技規則違反

- 28.1 競技規則に違反した競技者は、失格となる。
- 28.2 競技規則に違反した役員があったときは、大会コントローラーはその旨を、J O Aおよびその役員が所属する会員に通告する。
- 28.3 競技規則に対する違反はすべて、大会報告書に記録する。

29. 大会コントローラーの任務

- 29.1 大会コントローラーの主たる任務は、競技規則が遵守されていることを確認することである。
- 29.2 大会コントローラーは、以下の事項について権限を有する。
- a) テレインの適格性の判断
 - b) 基準に照合して、地図の質の審査
 - c) コース設定の質、およびスタートとゴール位置の適格性の判定
 - d) コースの審査（難易度、コントロール位置の選定、偶然性の排除、地図の精度）
 - e) コース配分と組み合わせの審査
 - f) 競技運営全般の確認と、宿舎や食事・輸送・プログラム・トレーニング関係などの内容の確認
 - g) 計時機器の信頼性と精度の確認
 - h) 競技への影響の可能性の観点から、報道関係などへの対応の仕方の確認
 - i) 式典計画の確認
- 29.3 大会コントローラーは大会当日、大会会場に常駐する。
- 29.4 大会コントローラーの経費については、主催者が負担する。

30. 大会報告書

- 30.1 主催者または主管者は、大会報告書を作成しなければならない。
- 30.2 主催者または主管者は、大会終了後2カ月以内に、所属する会員または開催地の会員へ、大会報告書を公式成績表および男女の最上位クラスのコース地図と全コントロール図各1枚とともに、提出する。

31. 付則

- 31.1 本規則は平成7年4月1日より施行する。
- 31.2 本規則の発効をもって、日本オリエンテーリング実施基準は失効する。

平成6年3月27日 制定

公認大会開催に関する規程

(社) 日本オリエンテーリング協会

1. 総 則

1.1 目 的

この規程は、社団法人日本オリエンテーリング協会（以下「J O A」という）定款第4条二項に基づき、J O A公認オリエンテーリング大会（以下「公認大会」という）について、必要な事項を定めるものである。

1.2 主 旨

公認大会は、日本オリエンテーリング競技規則（以下「競技規則」という）に基づいて開催され、競技者の成績をJ O Aが認定し、記録する大会を言い、各人の努力目標を高めると共に、オリエンテーリングの普及推進を図るものである。

1.3 基本原則

公認大会はすべての競技者に開かれたものでなければならない。但し一部のクラスを非公開にすることができる。

2. 開 催

2.1 主 催 者

主催者は次の(1)～(4)のいずれかでなければならない。

- (1) J O A
- (2) J O A加盟都道府県協会（以下「会員」という）
- (3) 会員に所属するクラブ等の団体（以下「団体等」という）
- (4) J O Aが開催を認めた団体

2.2 開 催

公認大会は主催者の申請により、J O Aが認めた年度毎の公認大会開催計画書によって開催され、年度途中で追加されることはない。

公認大会を開催するに当たり、以下の条件を満たしていなければならない。

- 運営責任者及び競技部門の主要部に公認指導員を配置すること。
- 普及を目的とするトリム－Oを併設すること。

2.3 参加料

公認大会においては、J O A が定めた参加料を徴取することができる。

2.4 公認料

主催者は公認料を開催日の1週間前までにJ O A にプログラムと共に納入しなければならない。但しNクラス分はその限りでない。

当分の間公認料は次の通りとする。

- E. A. Bクラス事前申し込み者（18才以上）1人当たり 500円
- 同（17才以下）同 200円

3. 申請及び承認

3.1 申請の手続き

公認大会の申請は、大会開催2年前から前年度9月末日までに様式1の申請書を、次のところへ提出しなければならない。但し、他の都道府県を開催地とする場合は、その都道府県協会の同意書を添付しなければならない。

- (1) 会員及びJ O A が認めた団体はJ O A へ
- (2) 団体等は所属する会員を經由してJ O A へ

3.2 承認

J O A は申請者と合議し、その年の11月に大会開催の可否を決め、申請者に通知すると共に公表する。

3.3 報告書等の提出

主催者は大会終了後2ヶ月以内に様式2による報告書ならびに様式3による成績表をJ O A に提出しなければならない。

3.4 取り消し

公認大会の申請に虚偽があった場合、または2.4項に違反した場合等は、公認大会を取り消し、以降開催を認めないこともある。

4. 特典

4.1 出場者の特典

公認大会に出場した者は、次の特典を有する。

- (1) 成績が公式記録として認定される。
- (2) エリート・クラス出場資格を得た者は登録され、公表される。
- (3) O L 1 0 0 キロ・コンペの対象となる。

5. 付則

5.1 この規程は平成7年4月1日から施行する。

5.2 日本オリエンテーリング委員会が定めた関連規程は本規程の発効をもって失効する。

様式1 (B 5 判)

平成	年度	公認大会申請書
(社) 日本オリエンテーリング協会		
会 長	殿	
	平成	年 月 日
	主催者名:	_____
	住 所:	_____
	代表者名:	_____ 印
平成 年度公認大会を下記により開催したいので、公認方 お願いいたします。		
記		
1.	大会名:	
2.	共 催 者 名:	
3.	開 催 期 日:	平成 年 月 日 ()
4.	開催予定地:	
5.	大会運営責任者:	
	競技責任者:	
	コントローラー:	
6.	地図の縮尺、等高線間隔:	
7.	参加料金:	
8.	協賛者の有無 (有の場合は協賛者名)	
9.	予 算	
10.	事務担当者連絡先: 住 所 〒	_____
	氏 名	_____
	電話番号	_____

注) 大会要綱 (案) は必ず添付すること。

様式2 (B 5 判)

平成 年度 公認	大会の報告
(社) 日本オリエンテーリング協会	
会 長	殿
	平成 年 月 日
	主催者名: _____
	住 所: _____
	代表者名: _____ 印
平成 年度公認 大会は、別添資料の通り、 終了しましたので報告いたします。	
個人クラス参加者数	計 名

- 注) 別添資料 1) 大会の写真及び配布資料等。
 2) 成績表(様式3による)。
 3) 男女の最高位クラスに使用したコース地図(各1部)
 4) 全コントロール図(1部)

様式3 (B 5 判)

平成 年度 公認			大会成績	
順位	氏 名	年齢	所 属	記 録
例: M21A 出場者 170名			規定時間	1.50.00
1	日本 太郎	25	東京XXOLC	1.10.05
2	田中 次郎	23	大阪・〇〇〇市	1.11.21
W21A 出場者 80名			規定時間	1.40.00
1	富士 美鈴	22	〇〇〇	1.00.21

- 注) 1. クラスは「記号」で記入すること。
 2. 順位は数字で上位より順に記すこと。
 3. 所属は、クラブ所属員の場合は「クラブ名」を記し、その以外は、居住する「県名」と「市町村名」を記す。
 4. 記録は「時間=。」「分=。」とする。
 5. この成績表は、個人クラス出場者とし、出場者総数、規定時間を必ず記すこと。

公認大会エリート・クラス出場規程

〈全日本大会〉

M(W)21E	(1) 前年度全日本大会	M(W)21E	10位(5位)以内
	(2) 本年度公認大会	M(W)21E	20位(10位)以内
	(3) 本年度東・西日本大会	M(W)21A	1位
M(W)20E	(1) 本年度公認大会	M(W)21E	有資格者で、20歳以下の者
	(2) 本年度公認大会	M(W)20A	10位以内
	(3) 本年度東・西日本大会	M(W)18A	1位

〈公認大会(全日本大会を除く)〉

M(W)21E	(1) 前年度全日本大会	M(W)21E	有資格者
	(2) 前年度公認大会	M(W)21A	5位以内
	(3) 前年度全日本大会	M(W)21A	10位以内
	(3) 前年度全日本大会	M(W)20E	5位以内

エリート・クラス有資格者は、J O A が適時公示する。

上記資格を持たない者がエリート・クラスに出場を希望する場合には、所属する会員の推薦を受けなければならない。推薦のあった場合、J O A の資格認定委員会が可否を判定する。

植物性

- 持久力・体力……健康の維持
- ノンコレステロールです

プロテイン95

- 皮膚・毛・目・爪・筋肉組織・分泌腺・血・
- ホルモン等すべてプロテインで出来ている

レシチン

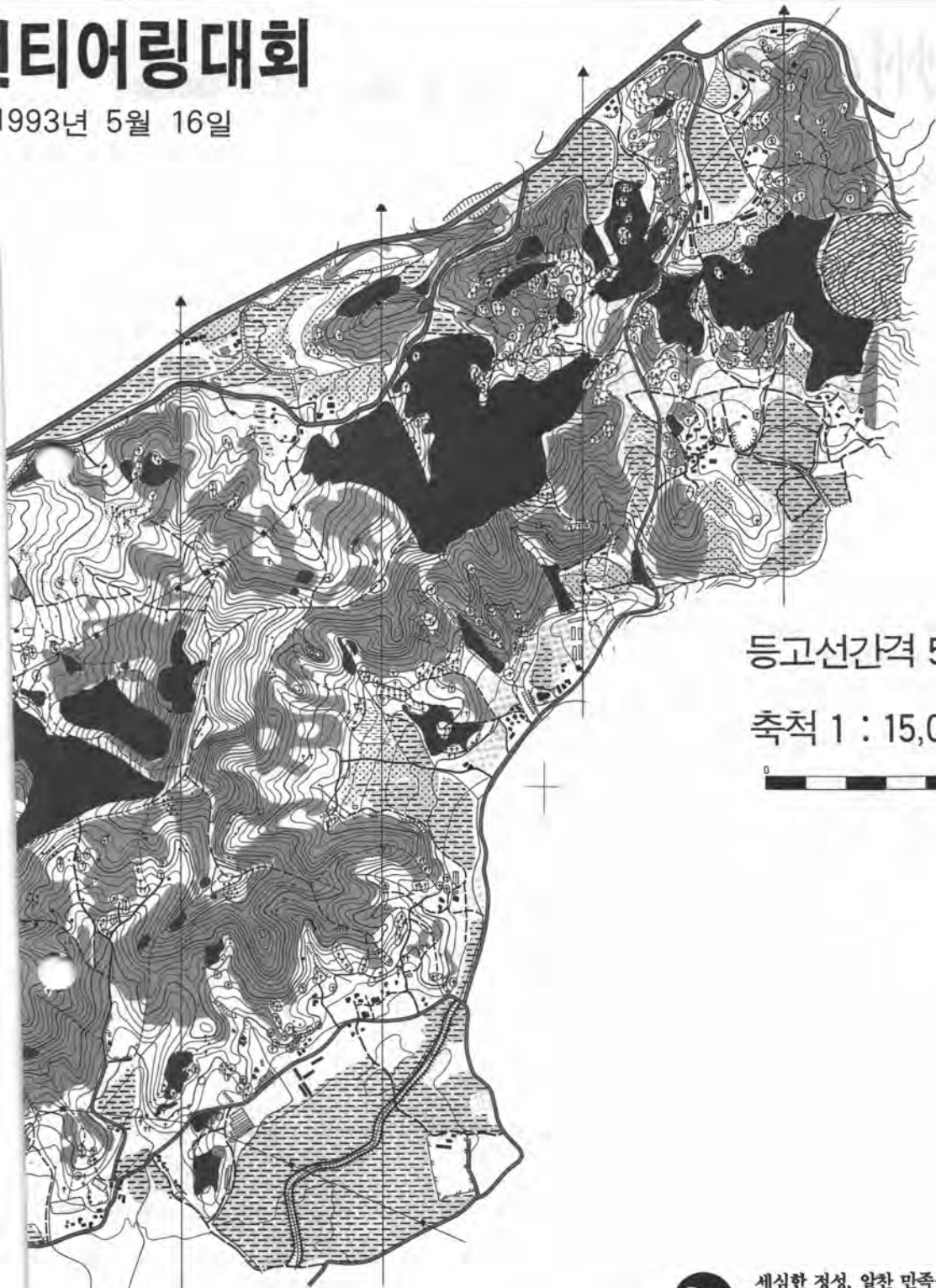
- 脳神経系統内分泌腺及び心筋成分
- コレステロール分解



● お問合わせは O J A P A N 編集部まで

오리엔티어링대회

1993년 5월 16일



등고선간격 5m

축척 1 : 15,000



한국오리엔티어링연맹



세심한 정성, 알찬 만족
(주)라파엘 여행사

(주) 대한리벤트

九州の風

岩井 馨 [博多OLC・九州産業大学6・福岡県OL協会員]

■福岡2DAYS

きたる11月13日(日)に、福岡市早良区にて『第17回西日本オリエンテーリング大会』を開催いたします。

~~~~

地元以外は2年前の1992年度より開始。同年9月23日に1回目の地図調査基準統一講習会が、吉田智昭氏(北九州OLC)を講師に迎えて開催され、講義の後、実際にトレイン内に入って実習を行ないました。

その後、トレインを大きく3分割し博多・北九州・小部の各クラブで1次調査を開始しました。

丁度1年後の1993年9月23日には、2回目の地図調査打ち合わせ会が開催され、それまでの進行状況の報告と、調査基準の再確認をトレイン内で行ないました。

この1次調査は1994年4月に終了、5月からは持ち場をチェンジして2次調査を開始しました。その2次調査も8月中旬には終了し、9月上旬に3次調査(兼・試走)を行なう事になっています。

~~~~

個人的には、1992年9月の地図調査基準統一講習会だけでは不安だったので(それ以前に調査の経験が無かった

ため)、同年12月の日本学連O-MAPクリニックへ参加しました。

また1993年5月の阿蘇大会や、同年11月の博多OLC大会の地図調査・作図を経験した事が、今回の西日本大会へ生かせればと考えています。

しかし、1993年1月から現在まで、ずう〜っと地図調査をしている(阿蘇大会〜博多OLC大会〜西日本大会の3連発)ような気がするのですが、たまに大会へ参加するとウキウキ新鮮な気分になってしまいます。

~~~~

さて、8月上旬より西日本大会の要綱配布を開始しました。先の長野県2日間大会でも会場配布いたしましたが(木村佳司さん・元木悟さん、お世話になりました)、もしも西日本大会に参加しようかと思案中で、まだ要綱を入手されていない方(クラブ)がおられましたら、80円切手貼付済・宛名明記の返信用封筒を同封され、至急、福岡県オリエンテーリング協会事務局までご連絡下さい。

個人クラスの事前申込期間は、9月7日(木)〜16日(金)〈当日消印有効〉の10日間ですので、ご注意ください。

尚、要綱の「宿舎の幹旋」の欄の、(株)日本旅行のTEL・FAX番号に誤りがありますので、次のように訂正願います。

誤) TEL 029-732-6363

FAX 029-715-2827

正) TEL 092-732-6363

FAX 092-715-2827

~~~~

また、西日本大会の前日でもあり、第2土曜でもある12日には、北九州市門司区にて『スボレク北九州市94・ふれあいウェーブ大会』も開催されますので、西日本大会と合わせてお楽しみいただければと思います。

12日の大会後は、スペースワールド(北九州市)にて遊ぶもよし、福岡ドーム・福岡タワーを見に行くもよし、博多の屋台でラーメンを食べるもよし、きつと[ドキドキのふくおか]、この秋の2日間は、あなたの思い出のひとつとして刻み込まれる事でしょう。

ご家族やクラブの仲間を多数お誘い合わせのうえ、是非お越し下さいませよう願っています。福岡県オリエンテーリング協会会員一同、大会会場でお待ちしております。

~~~~

福岡県協会事務局

〒830-11

福岡県三井郡北野町金島1859-1

小坪彰彦 気付

☎0942-72-2111 (内線443)

☎0942-72-2469 (夜間)

## 編集集部より

◆猛暑の夏、いかがお過ごしでしたか。編集子は8月初旬、1週間ほどの夏休み完全休暇で栃木県にある「分室」に。と言っても勤務先との関係書類などを持ち込

み、涼しい朝晩に仕事。要するに本誌のことは完全に頭から抜いた1週間だったわけです。昼間は泳ぎや山登り、何十年ぶりに絵筆もとりました。◆このページ

の岩井さん・「九州の風」に添えられた手紙に「西日本」の準備のことが書かれていました。若い人を応援して要項をカッパ裏に掲載します。「東」は連絡無。

O-JAPAN

発行人/田口 昭子

: 購読料

〒233 横浜市港南区日野南7-9-5

: '94.4月〜'95.3月

¥3,600

TEL.045-891-7004 FAX.045-891-2500

: (高校生以下)

¥2,400

分室=Annex TEL.0287-77-1977

: 1部あたり頒布価格

¥300

郵便振替口座/(番号)00270-9-46870 (加入者名)O-JAPAN 編集部

: 編集責任者/田口 馨

: Chief Editor: Hajime Taguchi

: Editorial Address:

: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

: Yokohama, 233 Japan